

国鉄労働運動解体攻撃に抗し共に闘う決議

≡ 4/5 京成労組 才126回臨時大会で決定し、
杉崎執行委員長代行が 動労千葉を激励訪問 ≡



82.5.1
No. 1034

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)八(会報) 日三三二七三〇七

京成電鉄労働組合才一二六回臨時大会(4月5日)で、現在国鉄労働運動解体攻撃の激化に抗して、同じクルマへの仲間として連帯して共に闘うという決議がなされ、週日、同労組杉崎執行委員長代行が激励も兼ねて動労千葉を訪れ、この決議を伝えられました。この向京成労組との関係は、千葉県内を主力とする京成労組という事もあって、動労千葉も京成資本の京成労働者に対する大合理化攻撃を国鉄合理化攻撃とまったく質の同じものとして、否むしる非常に厳しい攻撃としてとらえかえし、微力ではありますが共に闘ってききました。さういう立場から、今後も出来るかぎり共闘・連帯し、闘うことをお互いに誓い合いました。

決議文はつぎの通りです。

国鉄労働者に対する集中攻撃に抗し、支援・連帯し共に闘う決議

独占資本は、マスコミを総動員して私たちと同じクルマへの仲間である国鉄労働者に対し、いじみた攻撃をしかけている。

それは小さな職場規律の問題をほじくり出し、国民をあまり、けしかけて行革という名の大合理化を押しつけ、国鉄労働運動を孤立させ押しつぶすことを目的としていることは、いままの目にも明らかになりつつある。行管庁長官の中曾根は「国鉄は二〇三高地」と、河本経企庁長官も「国鉄改革なくして臨調なし」(いづれも「世界」四月号)と語っている。

京成においても、七七年以降の闘いの中で、私たちの正当な首切り反対の闘いに対して、マスコミを動員して「ハグレ京成」「ドロ沼京成」「サービス悪い労働者」などと、私たち働く者の切実な生活・労働実態を無視して利用者大衆を扇動し、京成労働者を孤立させ闘いを押えこむための世論作りを奔っていたことは忘れられない。また、最近、春闘を目前にして朝日新聞(京葉版)では、「京成特集」などと、国鉄に対する攻撃と期を一にして行なわれていることは、何を意味しているか歴然としている。

国鉄労働運動は、戦後一貫して我が国労働運動の背骨として、また機関車として日本の労働者階級の先頭になつて闘いを担つてこられた。私たち京成労組も、赤字・倒産攻撃に抗して全力で働く者の生活と権利を守つて闘つてきた。さうした闘う労働運動をつぶすのが、これら攻撃の目的であることは明確である。

私たち私鉄・バス労働者が、国鉄つぶしに目をつぶってしまったら、国鉄労働者の生活が奪われ押えこまれるだけでなく、民間・私鉄労働者の合理化や、労働条件は今以上に大巾に切下げられることは火を見るより明らかである。それだけでなく、国鉄労働運動がつぶされることは、日本の平和と民主主義がつぶされていくことになる。

国鉄キャンペーンが、ただ単に労働者の職場規律の問題ではなく、独占資本と政府・自民党が「憲法改悪」へむけての大きな野望を秘めた一大攻撃の一環として行なわれている。この本質を見抜くとともに、七七以降の京成闘争に対し、数多くの国鉄労働者からの激励や支援に励まされ、勇気づけられて私たちが闘ってきたことを、今こそ思い起こし、同じ交通労働者として国鉄労働者を支援し、ともに手を携え、苦しみを乗り越えて連帯して闘つていくことを決意する。

右、決議する。

一九八二年四月五日

京成電鉄労働組
第一二六回臨時大会

